

ゴ ミ ゼロ 5 3 0 レポート

第45号 2007年11月30日 発行

編集と発行 530運動環境協議会
〔豊橋市今橋町1番地 豊橋市役所環境政策課内 電話(0532)61-2414〕
〔URL <http://www.530.toyohashi.aichi.jp> E-mail 530@city.toyohashi.lg.jp〕



- 530のまち環境フェスタ - (フリーマーケットでの一場面)

9月15日に豊橋市役所、公会堂及び豊橋公園で、530のまち環境フェスタを開催しました。ごみ減量や省資源・省エネルギーをテーマに、ハイブリッド車などの低公害車の展示や家庭で出来るごみ減量など、私達に出来る身近なエコから物を作る事業者のエコまで色々な取り組みを紹介しました。また公会堂では、式典の他、地球温暖化に関するドキュメンタリー映画「不都合な真実」を上映しました。また同じ日に豊橋公園では、「とよはしバスの日2007」のイベントも開催され、両イベント共通のクイズ&スタンプラリーなどを実施し、合わせて約5,000人の方にお越し頂きました。

530会員募集のお知らせ

530運動環境協議会は、環境美化活動から省資源・省エネルギー、環境教育など、今後も様々な取り組みを行い、ごみがゼロになる社会を目指します。
本協議会では活動に参加・協力していただく会員を募集いたしております。法人・団体会員は1口1万円、個人会員は1口500円、いずれも年間費で1口以上です。申し込みは協議会事務局窓口のほか、ホームページからできます。

目次

530のまち環境フェスタ	
(1)環境市民530大集会	2
式典・映画「不都合な真実」	
(2)530フェア	2
会員の出展 他	
幼児環境教育～年長向け授業をリニューアル.....	3
～各園の取り組みを紹介します.....	3
駅前清掃を実施しました.....	4
豊橋まつりに出展しました	4
編集後記	4

530のまち環境フェスタ

私たちが暮らす地球の環境に配慮し、今までの生活スタイルを見直すきっかけづくりとして地球環境、ごみの3R(発生抑制、再使用、再利用)、省資源省エネルギーについて理解を深めることを目的として開催しました。

◆環境市民530大集会

地球温暖化に関するドキュメンタリー映画『不都合な真実』を上映しました。

内容概略

地球は人類にとって、ただひとつの故郷。その地球が、今、最大の危機に瀕している。キリマンジャロの雪は溶け、北極の氷は薄くなり、各地にハリケーンや台風などの災害がもたらされる。こうした異変は地球の温暖化が原因といわれる。アメリカの元副大統領のアル・ゴアは、人々の意識改革に乗り出すべく、環境問題に関するスライド講演を世界中で開き、地球の危機を訴えてきた。「不都合な真実」は彼の取組と「人類が滅亡するまでの真実のシナリオ」を明らかにするドキュメンタリー。



この作品で紹介されているエコ活動を紹介します。

Ten Things to do - 私にできる10の事 - (一部抜粋)

省エネルギー型の電化製品や電球に交換しましょう。

停車中は、エンジンを切り、エコ・ドライブしましょう。

リサイクル製品を積極的に、利用しましょう。

タイヤの空気圧をチェックしましょう。車の燃費基準を上げれば、無駄なエネルギー消費を防げます。

こまめに蛇口をしめましょう。水道の送水に使用されるエネルギーを削減することができます。

過剰包装、レジ袋を断りましょう。買い物は、リサイクル・エコ・バッグを使いましょう。

エアコンの設定温度を変えて、冷暖房のエネルギー削減をしましょう。

たくさんの木を植えましょう。1本の木は、その育成中に1t以上の二酸化炭素を吸収することができます。

環境危機について、もっと学びましょう。そして、学んだ知識を行動に移しましょう。子供たちは、地球をこわさないで、と両親に言いましょう。

◆530フェア

市役所1階市民ホール、市役所前市民広場及び豊橋公園で、ごみの3R(発生抑制、再使用、再生利用)や省資源省エネルギー等をテーマとして数多くのブースが出展されました。

市役所前市民広場では、530運動環境協議会会員により住宅及び家庭用機器の省エネルギー製品等の紹介・実演、ハイブリッドシステム搭載車・太陽光発電システムの展示、寄付品頒布、簡単にできる生ごみ処理方法及び各種リサイクルの紹介等がされるとともに、国土交通省中部運輸局愛知運輸支局の協力により天然ガス自動車のPRやエコドライブの勧めなど地球温暖化防止の取組みが紹介されました。

市からは、分別されたプラスチック(資源)がリサイクルされていく様子やスラグの有効利用について紹介されるとともに、下水道污泥から作られた肥料「のんほいユーキ」の配布等が行われ、また、リサイクルされた自転車や家具等の抽選会には多くの市民の方に参加していただきました。

市民ギャラリーでは、小学校の児童による環境美化及び下水道に関するポスター、書の作品が掲示されるとともに、身の回りの水の汚れを計る簡易水質測定、市内各地の川の透視度比較及び下水道汚水をキレイにしている微生物を顕微鏡で観察する等水環境に関する普及啓発が行われました。

また、豊橋公園では、一般家庭から募集した約100組の方がフリーマーケットに参加して、衣料品やおもちゃ、食器類等



(上)プラスチックリサイクルコーナー

(下)簡易水質測定コーナー

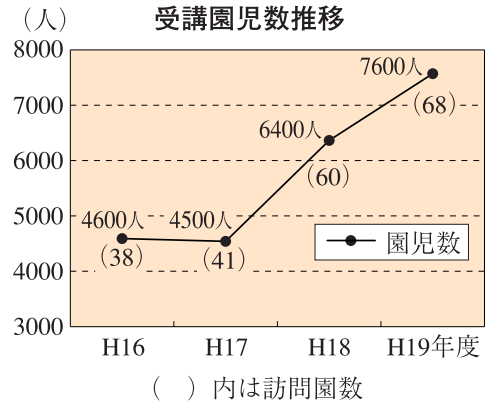
幼児環境教育特集

～ 年長向け授業をリニューアルしました～

530運動環境協議会では平成16年度から幼保育園児を対象に幼児環境教育を実施しています。今年は68園・7,600人(ブラジル人学校含む)に参加していただき、この4年間で207園を訪れ、延べ23,100人の園児に授業を行ってきました。(右グラフ参照)

始まった当初、年少向け授業の1タイプだった授業に平成17年度には次のステップとしてリサイクルの話を中心とした年長向け授業を加えました。年少向け授業では物を大切に壊れても直して使うことや”ごみを分けて捨てること”を伝えています。幼い子供たちにとっては何故わざわざごみを分けて捨てるのか不思議なことでしょう。その答えとして年長向け授業があり、リサイクルされる様子が分かり”リサイクルとは何かを理解できること”をテーマに行ってきました。収集されたプラスチックやペットボトルは様々な過程を経て新しい製品に生まれ変わりますが、今まではその過程を一場面ずつ画像で紙芝居のように表現してきました。しかしその表現には限界がありました。そこで今年は動きを取り入れた映像を作りました。映像といってもパワーポイントですが、ごみが集められベルトコンベア上を流れ破碎されたり溶かされたりして最終的な製品に生まれ変わるまでを見ることが出来ます。さらに生まれ変わった実際の製品を取り寄せ、見せるようにしています。今年、年長向け授業には25園・2,400人が参加しました。

年に一度の約40分間の授業。真剣に聞く子供たちに、環境への意識が芽吹いたことを確信しています。



～ 環境教育を受けて・園の取り組みを紹介します～

牛川東保育園

幼児環境教育を受け、子どもたちがゴミの分別に興味を持ち、教えてもらったことをより保護者や地域に広げたいという思いから、園の行事で紹介しようということになりました。園では、7月に園児・保護者・地域の方を含め450名程が参加し、夕涼みをしながら色々な出し物を見て楽しもうという「夏のおたのしみ会」があります。その中で、環境教育の内容や写真をパネルで掲示し、ゴミの分別を実際にやってみようというコーナーを設置しました。環境教育を受けた子供達が授業を思い出して「このマークのごみはここだよ」と保護者と一緒に分別する姿が多く見られました。小学生の兄弟も呼び込みをして盛り上げたり、保護者からも「園でこんなことをやっているんですね」家でもやろうと思います」という声が聞かれ、分別やリサイクルへの意識が高まったように思います。



柱保育園

今年で環境教育は2年目の受講になります。2年続けて受けてきた今年度の年長組では、お当番さんが交代でクラスと事務所の”ごみ集めと分別”をしています。各クラスでは常に”もやすごみ”と”プラスチック”の2つにごみを分けていますが、そのごみを年長組の当番がきちんと確かめながら分別し集めることでより高い意識を持つようになりました。事務所のごみはクラスからは出ないようなものも多く、子供達も何故か目を輝かせ興味津々。「これはこっちでいいの?」「今日のごみが少ないね」とチェックする声も聞かれ、ごみの分別に対する意識も高まっています。他にもペットボトルや新聞紙を片付けたりとお手伝いを通して分別が自然と身につけていくよう働きかけています。



駅前清掃を実施しました

530運動環境協議会では、平成15年から「駅前クリーンアップ大作戦」を実施し、駅前清掃を続けてきました。今年度は、5月と7月に行っています。

ごみを拾う人はごみを捨てない。これは一度でもごみ拾いを経験したことのある人なら理解できる言葉ではないでしょうか。ごみを拾うなかでその大変さを知るとともに地域への愛着が湧いてくるからです。

ごみを拾うという行為は簡単に思えますが、実践するのは大変なものです。一つの試みとして、ある世界的なIT企業では、世界中に一齐清掃を呼び掛けました。それは、清掃活動に参加した各国の人々がインターネット上で成果を公表し、目に見える形にすることで地域の活動を地球規模の活動に広げていこうというものです。最終的に、6大陸にまたがる300以上の地域で実施が確認され世界の関心を集めました。

清掃活動はごみを拾うことで終わりではありません。その活動を目にした人の心に働きかけができたとき、さらに意味のあるものになります。ごみを拾うという行為をとおして関心を持ってもらい、輪を広げていくことが大切なのではないでしょうか。530運動環境協議会はこれからも駅前清掃を続け、「ごみを拾うことでごみを捨てない」モラルを持った人を増やし、その輪を広げていきます。



豊橋まつりに出展しました

平成19年10月20日・21日、豊橋まつりに出展しました。

豊橋球場にブースを設け、530運動環境協議会の活動を紹介したパネルの展示や環境教育ビデオを上映しました。また、平成16年度から行っている幼児環境教育の教材を用いた、530クイズ(ごみ分別クイズ)も行いました。今年は、分別ボックスを3分別から4分別に増やしクイズに挑戦してもらいました。多くの子供たちがブースを訪れ、友達や家族と相談しながら熱心に取り組む姿が見られました。

今年は約400名の方にクイズに参加していただきました。



編集後記

天ぷら油で走る車を知っていますか？ 石油から作るガソリンの代わりに、家庭で一度使用した天ぷら油を燃料にして走る車があります。不要な油も再利用できて一石二鳥という訳ですが、天ぷら油で走る車が走り去った後には天ぷらの香りがするそうです。最近水素と酸素を使う燃料電池車や天然ガスで走る天然ガス車といった環境に配慮した燃料を使って走る車が増えてきました。より環境に優しい燃料を探しているのは車だけではありません。

飛行機は石油から取り出したケロシンという燃料を使います。これは私たちが冬に使う石油ストーブの灯油を精製したものです。日本のある航空会社が昨年度使用した燃料から排出されたCO₂は819万トン、これは日本で冬季に使用されるストーブから出るCO₂一年分の約1.5倍にもなります。そこで研究が進められているのが植物から作ったバイオエタノール燃料です。もともと大気中のCO₂を取り込んで育った植物から作り出した燃料なので燃焼しても新たなCO₂の排出にならず、京都議定書でもCO₂の排出量としてカウントされないことになっています。実際に2005年にブラジルの航空機メーカーが100%エタノールの燃料で飛ぶ1人乗りの航空機を開発しました。2008年からはアメリカの航空機メーカーでも大型の旅客機で試験飛行が行われるそうです。

植物から作った燃料で飛ぶ飛行機。飛び去った後にはどんな香りがするのでしょうか。